

【愛知県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
南知多町	南知多	未開発地の優良農地化で新たな作物の導入に挑戦	1	H29.08	3
弥富市	鍋田	異業種とのコラボによる次世代型大規模水田経営の実践	2	H29.08	3
碧南市	碧南	たゆまぬ生産技術の改良によるにんじんブランドの成長	3	H30.03	4
豊田市	東保見大池・新池	ため池の防災工事により下流の被害を防止	4	R4.03	8

【工夫のポイント】

- 基盤整備により、**営農の機械化や新たな作物の導入**が可能となり地域農業が発展。
- **露地栽培とハウス栽培を組み合わせる**ことで、安定した農業経営を実現。
- **地域の直売所**に出品することで生産者自らが価格設定を行うなど、主体的な販売に取り組む。

基盤

畑作を基盤とした地域農業の構築

傾斜の緩い農地の造成により**経営規模の拡大**や**機械の導入**が可能になるとともに、排水路やスプリンクラーかんがい施設の整備により、**効率的な営農**を実現。



露地栽培及びハウス栽培の状況

基盤整備

(S51年～H6年)

【整備前】

知多半島の最南端に位置し、標高は概ね20m～120mの起伏のある地形であり、また農道が未整備であったことから未開発地が多かった。そのため、水稲、みかん等の**既耕地は狭小**かつ**点在**しており、非効率な営農であった。



基盤整備前の南知多町

【取組地域の概要】

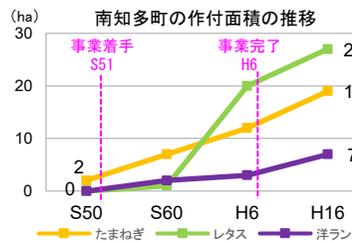
- 位置 みなみたちょう
愛知県 南知多町



- 主要作物
・キャベツ、たまねぎ、飼料作物、花き等
- 主な支援施策
・国営農地開発事業(S51～H6)
・愛知用水二期事業(S61～H5)
・広域営農団地農道整備事業(S62～H19)
・構造改善事業(S59～H3)
・多面的機能支払交付金(H19～)

生産現場

農地造成を契機とした新規作物の導入や露地とハウスの組合せによる経営の安定化



- 農地造成を契機として、**たまねぎの作付拡大**や、**レタス**や**洋ラン**など、**当該地域における新規作物の導入**を推進。

【出典：愛知県農林水産統計】



パプリカのハウス栽培

- また、一部の農業者は、キャベツ等の主作物を露地で栽培するとともに、**パプリカなどをハウスで栽培**することで、安定した農業経営を図っている。

加工・流通

直売所への出品により主体的な販売を実施



近接の直売所で農産物を販売

- **生産した農産物を近隣の直売所で販売**することで、**生産者自らが価格を設定**できるほか、消費者との顔が見える信頼関係を築くことで安定した販路を確保。

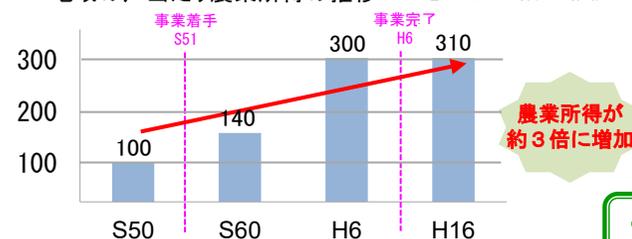
農地造成を契機とした新たな作物導入等により、収益性が向上

- 地区内の代表的農家においては、野菜や花き類などの新規作物の作付拡大を通じて、**年間販売額で、2,000万円～6,000万円(耕作面積3ha～11ha)を確保**しており、収益性の高い農業を実践している。

野菜生産に取り組むモデル経営体の現状(H25)

【営農規模】12ha
【作目】野菜
(キャベツ6.5ha、ブロッコリ-3.5ha、タマネギ2.0ha)
【販売額】6,000万円 【※出典：南知多町役場聞き取り】

地域の戸当たり農業所得の推移 (S50を100とした場合の推移)



【工夫のポイント】

- **異業種企業(トヨタ自動車(株))との連携により、ICTを活用した生産方式を導入**することで、大規模水田の管理体制を改善。
- 農業未経験者を従業員として雇用する際には、**グループ制教育**により技術指導を実施。
- 多彩な商品開発や販売など**6次産業化の場では、女性の力を活用。**

基盤

湛水被害の防止と汎用化による経営の安定化

造成農地では、排水機場や排水路の整備と併せて客土を実施し、**湛水被害の防止と汎用化**が図られた。

これにより、災害に強い農村地域の形成や複合経営が可能となり**安定した営農と作物の高品質化を実現。**



排水機場や排水路の整備による災害に強い農地

基盤整備 (H10年～H16年)

【整備前】

ゼロメートル地帯の低平地で、農業用排水施設の老朽化、断面不足、地盤沈下により**排水不良**を起こしていた。

また、耕地は、排水路同様不等沈下により田面の低下が見られ**湛水被害**が発生。



井戸の抜け上がり



湛水被害の状況

【取組地域の概要】

○位置 やとみし 愛知県弥富市

なべた 鍋田地区



愛知県

○主要作物
・米、麦、大豆

○主な支援施策

- ・国営鍋田干拓建設事業(S21～S38)
- ・機構営木曾川総合用水事業(S41～S57)
- ・海岸保全施設整備事業(S44～H19)
- ・地盤沈下対策事業(S53～H17)
- ・湛水防除事業(S46～)
- ・土地改良総合整備事業(H10～H16)
- ・海岸整備事業(H20～)
- ・多面的機能支払交付金(H23～)
- ・経営所得安定対策等(H23～)

生産現場

異業種企業と共同開発したICTを活用し生産管理



ICTを活用した生産管理

- 広範囲にわたる大面積GPSとスマートフォンを活用し**農作業の進捗状況や実績、水田面積などの情報をクラウド上で管理**。事務軽減、作業ロス解消、進捗状況リアルタイム管理など**データ活用による計画的・効率的運用が実現。**

加工・流通

女性の視点による商品開発や販売の強化



女性の視点で商品開発

- **契約販売により米価の維持**を図るほか、**女性の視点から餅や米粉パンを開発**。多彩な商品開発や6次産業化により経営を多角化し、販路を拡大。

担い手

従業員育成で生産能力アップ

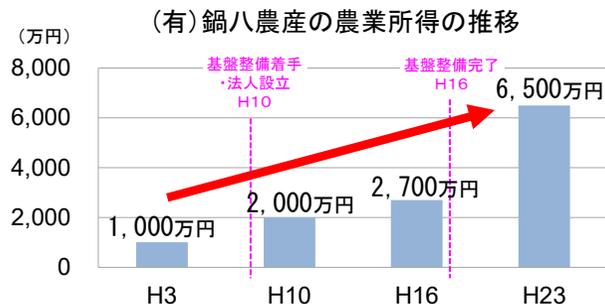


従業員の技術指導

- 「**やる気醸成と考える従業員育成**」を方針に、農業未経験者に対する試験水田での技術指導を通じて**生産意欲向上を図り、自立的人材を育成。**

先進的な大規模水田経営による所得の向上

- 鍋田地区の代表的な農業法人である(有)鍋八農産では、整備された大規模な水田において、**ICTを活用した生産管理**を実施し、経営を革新。更に、**従業員教育や女性の視点を取り入れた6次産業化**などを通じた生産力・販売力の強化を図っており、**収益性の高い先進的な水田経営を展開**している。



【工夫のポイント】

- 基盤整備により大型機械の導入や水管理の省力化が図られることで生産性が向上したほか、「**にんじん**」や「**たまねぎ**」などの**露地野菜の導入**が実現。
- 生産者とJAが連携・協力し、**栽培技術や品質向上の研究**を続けることで収量を向上させたほか、ジュースなどの加工にも取り組むことで**作物のブランド化に成功**。現在も、**地域全体での販売額は成長**を続けている。

基盤

用水の安定供給による畑作地帯への変貌

- 点在するクレーク等の埋立による農地造成とともに区画整理と農地の集団化を進めたことで、**大型機械の導入が可能となり、労働生産性が向上**。
- 水源(羽布ダム)の確保と併せて、水路のパイプライン化を行い、スプリンクラーかんがい施設を整備したことで、**用水の安定供給、水管理の省力化**が図られ、収量や品質が向上。



基盤整備 (S27年～S49年)

【整備前】

水稲作については、河川からの取水量が安定せず、安定した用水確保が課題となっていたほか、畑作は天水に頼る営農であり、**恒常的な干ばつ被害が発生**していた。一方、排水性が良好でなく、**降雨時には湛水被害**を生じるなど、水の苦勞が絶えず、生産性の向上に支障を来していた。



【取組地域の概要】

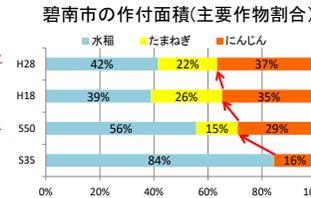
- 位置 へきなんし 愛知県碧南市



生産現場

用水確保による畑作物への転換

- 畑地かんがい施設の整備により、**にんじんやたまねぎといった収益性の高い露地野菜**を中心とした経営に転換。



- 生産者とJAからなる「碧南にんじん部会」や「たまねぎ部会」では、良好な生産基盤の下、県農業改良普及員とともに、**栽培技術や品質向上に向けた研究**を重ねている。

ブランドにんじん「へきなん美人」の普及

- **地域ブランド「へきなん美人」として積極的にPR**するほか、にんじん独特の臭みがなく、甘みが強い特性を生かし、**ジュースへの加工等にも取り組む**。
- これまでの取組が評価され、平成29年には碧南市で「**全国にんじんサミット**」が開催。



加工・流通

規模拡大や品質向上技術の探求等を通じたブランド化により販売額が増加

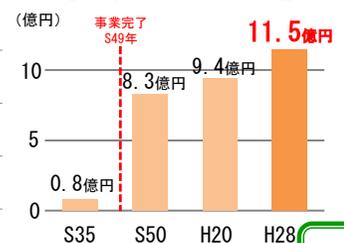
- 基盤整備による良好な営農条件の下、篤農家やJA生産部会が土壌条件に合う品種の探求に取り組むほか、栽培技術や品質向上を研究。
- **生産者のたゆまぬ努力により、地域ブランド及び一産地を形成**しており、現在も**収量や販売額が成長**。



【にんじんの単収(kg/10a)】



【碧南市にんじん販売額】



【出典：S35,S50,H元は農林統計から算定、H20,H28はJA聞き取り】

【対策のポイント】

ひがしほみおおいけ・しんいけ

- 東保見大池・新池は、重ね池で貯水量は合わせて6万8千㎡と大きく、**下流に多数の住宅**が存在。
- **耐震性の不足**が見られ、**地震発生時には決壊により大きな被害**のおそれ。
- このため、3か年緊急対策において、**堤体の耐震補強**を実施。
- 防災工事の完了により、**地震によるため池被害を未然に防止**。

【取組地域の概要】

- 位置 とよたし
愛知県豊田市

ひがしほみおおいけ
東保見大池
しんいけ
・新池地区



- 主要作物
・水稲

事業名	事業費	対策期間
農村地域防災減災事業	4億6,400万円	H28～R2
うち3か年緊急対策	1億700万円	R1～R2

ため池の防災工事を実施

- **耐震性の不足**が見られ、地震による決壊時には大きな被害が発生するおそれ。
- このため、3か年緊急対策により**堤体の耐震補強**を実施。

対策前



対策後



防災工事
(H28～R2)

基盤

堤体の決壊を防止し、下流の被害を回避

- 南海トラフ地震発生時は、東保見大池・新池周辺で**震度5弱から震度5強の揺れが想定**。
- **付近には活断層**(猿投一境川断層)が存在。
- 従前は、地震時に法面崩壊や堤体の液状化のおそれがあったが、**防災工事を完了したことで所要の耐震性能を満足**。
- 堤体の決壊が防止され、**下流の農地や住宅への被害を回避**。

想定される被害

	想定被害額	影響を受ける人家・事業所
対策なし (決壊した場合)	18億9千万円	37戸
対策あり	被害なし	被害なし



浸水想定区域図

対策の効果